



# 徳川美術館 名品コレクション展示室

令和3年 3月30日(火)～6月20日(日)

展示期間 A:3月30日(火)～4月27日(火) B:4月28日(水)～5月25日(火) C:5月26日(水)～6月20日(日)

## 【第4展示室】

### 武家の式楽 - 能 -

足利将軍家は、猿楽＝能を庇護し、高度に洗練された舞台芸能に育てあげた。大名たちにも大いにもてはやされ、公式行事に演能は欠かせぬものとなった。江戸幕府もこの伝統を承け、舞楽が公家の式楽であったのに対して、能を武家の式楽と定めた。

御殿の広間の前庭には能舞台が設けられており、慶事や公式行事の際には必ず能が演じられ、それを見ながら宴は進められた。そのため大名家には能役者が召抱えられ、各種の曲目に応じられるように、いろいろな装束・能狂言面・小道具が備えられていた。

正月二日(後に三日)には幕府で「謡初め」が行われ、大名家でも年中行事とされた。大名自身も謡い、時には自ら舞うことも必須の教養とされていた。

No.	名 称	作者・所用者・所蔵者など	時代	世紀	期間
1	能面 笑尉 焼印「天下一河内」	河内大掾家重作	江戸	17	A
2	能面 小飛出		江戸	17-18	C
3	能面 小面		江戸	18	A
4	能面 曲見 銘 元利栄満(花押)	元利(出目)栄満作	江戸	17-18	B
5	能面 若男 焼印「天下一友閑」	友閑満庸作	江戸	17	B
6	能面 慈童		江戸	17-18	C
能舞台					
7	紺地檜垣に竹の丸文袷狩衣		江戸	18	A
8	萌黄地亀甲に桐文金襴袷狩衣		江戸	18	B
9	紺地牡丹・獅子丸文金襴袷狩衣		江戸	18	C
10	赤地牡丹折枝花の丸文長絹		江戸	18	A
11	白地水草文長絹		江戸	18	B
12	白地牡丹唐草文金襴袷法被		江戸	18	C
13	蜘蛛巣・柳に燕文染分素袍		江戸	18-19	A
14	紺・茶・花色段小紋掛素袍		江戸	18	B
15	柳茶地鶴亀文掛直垂		江戸	18	C
16	紅・浅葱段入子菱に牡丹蝶文唐織		江戸	17	A
17	紅地柳に蹴鞠文唐織		江戸	19	B
18	浅葱・茶段七宝に鶴菱・雲文厚板唐織		江戸	17	C
19	紺地花菱亀甲に龍の丸文厚板		江戸	18	C
20	紅・白段雪輪・蒲公英文縫箔		江戸	17	A
21	色々段緋入熨斗目		江戸	18	B
22	簾に二葉葵蒔絵小鼓胴 金漆銘「弥助作 幸五郎次郎 正孚(花押)」	伝弥助作	江戸	19	A B
23	孔雀蒔絵小鼓胴	菱田家寄贈	江戸	19	A B
24	白狐戴		江戸	19	C
25	槌		江戸	19	C
26	刀身		江戸	19	C

以上